

令和4年度教育事業

「地域探究プログラム オリエンテーション合宿 in 花山」 事業報告

- 1 趣 旨 高校生が地域づくりや地域の課題解決などに関する体験活動を通して、問題発見・解決能力を身に付け、新たな価値を創造する人材育成に資するとともに、それぞれの実践活動の成果や自身の成長を適切に評価し、青少年の体験活動に関わる社会的な認知を高める。
- 2 主 催 独立行政法人 国立青少年教育振興機構 国立花山青少年自然の家
- 3 期 日 令和4年 8月 5日 (金) ～ 6日 (土) 【1泊2日】  
9月 9日 (金) 【1日】 計：3日間
- 4 参加者 宮城県築館高等学校 2年生 12名
- 5 場 所 国立花山青少年自然の家・築館高等学校 ほかに栗原市内各所

6 日 程

	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22			
1日目	集合・受付				開 会 式	講 話 「地域づくりの 実践」	昼 食 ・ 休 憩	移 動	フィールドワーク① 「地域の魅力を発見」					夕 食 ・ 休 憩	講 義 ・ 演 習 「地域理解」 「課題解決の基礎」			入 浴 休 憩	就 寝	
2日目	起 床	洗 面 ・ 身 支 度 等	朝 の つ ど い	朝 食	出 発 準 備	移 動	フィールドワーク② 「地域課題の探究」					移 動	休 憩	講 義 ・ 演 習 「地域課題 の探究」	夕 食 ・ 休 憩	講 義 ・ 演 習 「地域課題の探究」			入 浴 休 憩	就 寝
3日目	講 義 ・ 演 習 「地域課題 の探究」							発 表 ①	講 義 ・ 演 習 「行動計画の基礎」		発 表 ②	実 践 活 動 の た め の ガ イ ダ ン ス		閉 会 式						

7 活動の内容について

【8月5日 (金) 1日目】 講話、フィールドワーク①、グループワーク



【8月6日 (土) 2日目】 フィールドワーク②



## 【9月9日（金）3日目】講義・演習、発表①② ほか



### 8 成果と課題

#### (1) 参加者アンケート結果

満足：100% やや満足：0% やや不満：0% 不満：0%

参加者12名全員が「満足」と回答した。主体的にフィールドワークやグループワークに取り組み、今後の学習への意欲の高まりが感じられた。

#### (2) 参加者の声

- ・栗原市、地域のことについて深く理解することができました。
- ・普段の学校生活では味わえない貴重な体験ができました。荒砥沢を上から見学できたことがとても印象に残りました。
- ・職員さんたちが私たちにアドバイスをしてくれて、課題を解決しやすかったです。ありがとうございました。
- ・自分たちだけでは見つからなかった課題に気づくことができ、とても良い時間でした。よりよくするために改善をしていきます。
- ・他の分野のグループの発表を聞くことができ、発表の仕方だけでなく考え方なども学ぶことができたので、良い機会になりました。
- ・フィールドワークを通して、わたしたちが普段あたり前だと感じていることが実は意外な面で影響を及ぼしているなど、新たな発見ができた。栗原市をよりよくしていくためにも、今後の活動にも力を入れていきたい。

#### (3) 成果

- ・ガイダンス後の講話「地域づくりの実践」では、昨年に引き続き鹿児島県鹿屋市柳谷町内会（やねだん）より豊重哲郎氏をお招きし、地域づくりにかける熱い思いを語っていただいた。その思いを感じ取った高校生は、その後のフィールドワーク等に変意欲的に取り組んだ。
- ・フィールドワークでは、地元で活躍するさまざまな分野の専門家からご指導いただいたり、話を聞かせていただいたりした。自分が立てた課題について、直接対象にふれ、体験することで学習が深まった。
- ・今回の参加者は、高校の先生より推薦されて参加した3グループであった。各グループに職員を支援者として配置し、高校の各担当の先生と連携することで、より細部にわたる支援を行うことができた。

#### (4) 課題

- ・参加者決定から合宿までの日数の少なさ、コロナ禍等の理由で、フィールドワーク先を探すのが非常に困難であった。合宿の期日については検討が必要である。
- ・コロナ等の理由で、合宿の日程を急きょ変更して実施した。学校側と日程の再調整が難航し、合宿で消化できなかったカリキュラムが9月上旬の実施になってしまい、参加者が実践活動に取り組む時間が少なくなってしまった。コロナ禍が続く中で日程の変更などについても視野に入れて計画を立てていく必要がある。

担当：主任企画指導専門職 村山 浩康